

進路だより



富岡特別支援学校
移行支援部 No.4
令和2年7月20日(月)

進路だより4号では、高等部の就業体験についてお伝えします。

就業体験は、例年、6月、9月、2月の年間3回行います。同じ作業種を2週間続けることで、体力をつけ、働くことの厳しさを実際に体験します。

1年生	校内で行い、学校という集団の中で、働くことの基礎基本や意識づけを学びます。
2年生	実際に一人で現場（事業所、施設、会社等）に出て、学校で身につけた力を発揮します。
3年生	自分の進路を明確にして現場（事業所、施設、会社等）での実習を行います。

生徒たちは、緊張感をもって就業体験を重ねるごとに、体力もつき、大きく成長していきます。また、自分で立てた目標を達成できたときの充実感を感じて、さらなる課題に向かいます。

今年度は、学校再開が6月でしたが、1学期中に校内実習を体験させたいという教職員の強い思いにより、短期間で準備を行い、感染症対策を行いながら、7月6日(月)より校内実習を始めました。



目標発表会の様子



とみおか園工房での現場実習



佐川急便での現場実習



「習慣化された生活体験」「一人でできることを増やす」ことについて

7月13日(月)、生徒と保護者と実習先(市内)の本社(県外)に面接に行きました。面接では、「決まったお手伝いをしていますか」「自転車に乗れますか」「友だちと、または一人で電車を利用したことがありますか」等、たくさんの質問がされました。生徒が「お手伝いは、洗濯をしています」と答えると、「それは、洗濯機をまわすことですか。洗濯物を干すことですか。とりこむことですか。たたむことですか」「どういう風に「シャツはたたみますか」など細かく質問されました。生徒本人は、体験の中から、きちんと答えることができました。さらに、保護者にも説明が求められました。保護者からは「自分の体育着の洗濯が必要だったのがきっかけです。だんだん親に聞きながらやってくれるようになりました。初めは、柔軟剤と洗剤を間違えてしまうこともありましたが、今では一人でやってくれています。靴下の干し方も私のやり方を見ていて、同じ物は近くに干すこともできるようになりました」と貴重なご回答をいただきました。この面談を通して「習慣化された生活体験」「一人でできることを増やす」ことの大切さを感じました。学校でも、共通理解のもと、指導に生かしていきたいと思えます。

